

早稻田大學編輯部編纂

教員檢定
試驗問題解答



早稻田大學出版部藏版



教員檢定試験問題解答

(第十九回文部省檢定地理科豫備試験)

一 謂ゆる流星とは何ぞ

流星は地球の氣圏内に入り來り地球の引力に依りて地球表面に落下する微細の天體にして落下の速度大なるが爲に空氣と摩擦し光熱を發して進行するものを云ふ、其の始めて吾人の眼に映ずるは、地面より平均七十六哩の高さにありて凡そ五十哩の處に降りて消失するも、平均三十四哩に降りて光輝を失ふものあり、而して暗黒見るべからざる後に至りても流星は地球表面に到着するものなるが、特に吾人の視覺に觸るゝものは隕石と呼ぶる、隕石を組織する岩石は鐵、硅素、酸素等地球上に見るが如き元素を含み別に珍奇なるものを見ず、又流星は夜としてなきは非ざるも殊に多きは八月及び十一月なり、蓋し此の頃にありては太陽の周邊を繞る小天體の軌道と地球の軌道とが交はるに由るならんと云ふ。

二 「夕なぎ」の顯著なる地方と否らざる地方とあり 其理由を問ふ

「夕なぎ」なる現象は海軟風吹き終りて陸軟風未だ起らず空氣の靜穩なる時を云ふ。陸海軟風の起るは一日中にて水陸に氣溫の差あるが爲にして、晝は陸の氣溫高く海の氣溫低きを以て海軟風吹き、夜は此の反對に陸軟風吹くなり、而して水陸の氣溫の差が大なる處にありては陸軟風、海軟風、共に顯著にして、從ひて陸が多量の熱を失ひて水陸の氣溫が平均するまでには多くの時間を要し、「夕なぎ」は顯著なるべし、勿論地質地形等も預りて力あるものなり、本州、四國、九州の三大島を以て圍繞せられ東西に長く南北に狭き瀬戸内海地方は「夕なぎ」殊に著し。

三 風化作用と氣候との關係に就きて記せ

風化作用と氣候との間には親密なる關係あり、第一に大陸氣候の地は風化作用盛なり、抑溫度に昇降あるや岩石其の他の物體は膨脹或は收縮するが、岩體を組織する諸礦物は膨脹收縮の度を異にするが爲溫度の變化は岩石の組織を崩壊せしめ晝夜

の溫度並に寒暑の激變ある處に於ては此の作用殊に著し、而して空氣の溫度氷點以下を示す時は岩石中の水は氷に變じて容積を増す、此の膨脹に依りて亦岩石は遂に破壊せらるゝものなり、第二雨量多き地は風化作用盛なり、蓋雨水が地上に達するや既に含有せる酸素、炭酸瓦斯其の他の瓦斯體は石灰岩、凝灰岩等を始として諸種の岩石を化學的に侵蝕し、併せて物理的に崩壊せしむるものなりとす、而して雨雪として降下するに先ちても水蒸氣は酸素、炭酸瓦斯、硝酸、安母尼亞等の諸瓦斯と共に岩石を化學的に變化せしむ、例へば黃鐵礦酸化して硫酸と褐鐵礦とを生じ、此の硫酸が石灰に作用して石膏を作るが如し。

四 津浪の起因を問ふ

津浪は地變又は氣壓の差に由りて起る大波浪にして海嘯漏斗狀の河灣にて潮流と河水と衝突する時に生ずる巨浪と同じからず、而して津浪は如何にして起るかを尋ぬるに、(一)海底の地震に基づくあり、(二)一八八三年のクラカタアに於けるが如く海底火山の破裂に因るものあり、(三)海岸に近き急傾斜面に於ける斷層によりて津浪の生ずることもあり、何となれば該斷層は海陸の眞の境界にして地殼の弱處なれば此處

に地之の起るあらんか。海水は大なる激動を受くること疑を容れず、又(四)氣壓の急激に氣變化するに際しても津浪を起すとあるは、我が相模灣に於て屢見る所なりとす。

四

五 韓國の地勢に就きて記せ

韓國の主要なる山脈は、北部に不咸、江南、秋踰、妙香等ありて西西南より東東北に走り、中部には滅惡山脈、慈悲山脈等ありて東西に走り、馬息、九月の諸山脈は斜行す、南部には南西より北東に向へる蘆嶺山脈、車嶺山脈あり、北微東に進める小白聯脈あり、殊に太白聯脈は北微西の方向に伸びて半島の東部に偏在す。

此の如くにして韓國の地勢は北部最も高く、東部之に次ぎ、西部と南部とは稍低くして高山秀嶺と稱すべきものは存在せざれども、丘陵は甚多く、平低の地は少なきに似たり、而して其の平原と稱すべきものも多くは河流の沿岸若しくは海濱にありて廣袤の大なるものなし、今稍著しきものを列擧せんに咸鏡平野は長さ四十軒幅十六軒ありて地味佳良なり、洛東江の沿岸に於ける洛東平野は廣袤大ならざれども濕潤宜しきを得地味悪しからず、錦江平野は概ね肥沃なるものゝ如く、漢江平野は積鹵瘠を覺ゆれども大同江平野は廣袤稍大にして地味は肥瘠相半せり、其の他沿海の小平

野には肥沃の地なきにしも非ざれども、概ね土地瘦せて田園を開くには少なからざる肥料を要するものの如し。

六 マダガスカルの住民に就きて記せ

マダガスカルの人口は、凡そ二百六十四萬人ありて土人の數は二百六十二萬人に近く、黑人、アラビア人、ヨーロッパ人等は甚だ少數なり、土人は主としてマライ派に屬し最も優勢なるホバ(Hovas)は八十五萬人あり、此の外西部にサカラバ(Sakalavas)、南及び南西部にベツレオス(Betsileos)、バラ(Bara)、東部北東部にベツミサラカ(Betsimisarak)あり、アラトラ(Alatra)湖の北西にシハナカ(Sihanaka)あり、宗教に就きてはキリスト新教専ら行はれ、カソリック教を奉ずるものは四十萬人に止まれり、教育は八歳より十四歳までを義務年限とし、小學其の他公立私立の學校尠なからず。

七 ドイツの植民地に就きて記せ

ドイツ人は戰勝の餘榮として殖民業を起し、僅に二十數年にして二百六十萬方軒の地と一千三百萬の住民を領有するに至れり、されば世界の殖民國中にて第四位を

占むるの名は存すれども未だ利用の實を獲るに至らざるが如し、然れども本國の生産大に増し船舶の發達甚だ速なれば殖民事業も亦有望なりと云ふべし、今ドイツの殖民地を洲別にせば、アフリカには、トゴ、カメルン、ドイツ領南西アフリカ、ドイツ領東アフリカ等の二百三十五萬餘方人あるが、オセアニアには新ギニア、マーシャル、サモアあり、アジアには租借地たる膠州灣あり、膠州灣の外は概ね知事を派遣して之を支配せしむ、而して上記新ギニアはカイゼル、キルヘルム、ランド、ビスマルク群島、サロモン諸島、カロリネン、マリアネンの諸島より成れり。

八 世界に於ける養蠶業に就きて記せ

養蠶業は天蠶、柞蠶、家蠶等の蠶蟲を飼養して生糸、真綿、絹布等の原料たる繭を供給するにあり、天蠶(*Serica ria Yamamai*)は長野縣、廣島縣等に於て櫟、檜等の樹上に放飼せられ、繭糸は光澤に富むも染色に便ならずして、山繭、縮緬、天蠶織等の製作に用ひらる、柞蠶(*Sericaria pennyi*)は清國の原産にして、山東地方に多く飼養され、仔蟲は檜(柞)の葉にて養ふを常とすれども其の性は天蠶の如く半野生なり、絲質は光澤に乏しく、染色に便ならず、清國にては繭綢に製す、家蠶(*Sericaria mori*)は有用蟲殊に蠶蟲中の最要のもの

なり、南アジアの原産にして、清國、日本を始とし、アジアの西部、ヨーロッパの南部に於て桑葉を以て盛に飼養せらるゝが、繭の總産額は一千万疋以上に達すべきや疑なく、變種の數は三百有餘を算すと云ふ、而して孵化の時期に依れば一化蠶、二化蠶、三化蠶、四化蠶の四種に大別し得べく、脱皮の度數に依れば三眠蠶、四眠蠶を得べく、變種に依りては飼育に便なるあり、繭に大小あり、絲質に多少良否あり、世界蠶絲の總産額は一千七百萬疋以上にして、百分中二十八は日本、二十七は支那、二十五はイタリアの供給する所なり。

九 左の地に就きて知る所を記せ

フエズ(Hoen) フエズはマグレブ國の首府にして、十四五萬の人口を有し、同國第一の大都會商業上の要地たり、此の市は大西洋岸を東に距る約百六十料に位し、數丘の斜面に據りて新舊の二部に分かれ、街路狹隘汚穢なり、スルタンの宮殿、百五十のモスケ即ち回教寺院あり、靈地の一と仰がる、産物には毛織外套、絹手巾、フエズ帽、土器等あり、隊商の往來多し。

ヤツン(Yatung) ヤツンは榮楚或は亞東なる漢字を充つ、チベット、ウイ州の開市にし

てプータン(Pootan)の北西境に近し。

大田 大田は韓國忠清南道の南東部に位し交通上の一要地なり。

リエーシ(Lisboa) リエーシ(Lisboa)は同名の州の首府にしてベルジック(Belgic)にあり、ブリックセル(Brickell)の東微南豊富なる石炭の産地に建ちてムーズ河(Mooz)畔に位し砲塞を繞らす、ムーズ河は本市を新舊の二部に分ち新街即ち右岸の地は街衢頗る整へり、市内には大學其の他各種の學校、寺院、劇場等ありて建築の見るべきもの少なからず、武器、機械、織物、時計、金銀器、熟皮等の工業品を出だし商業活潑なり、人口は十七萬ありてベルジック第三の都會と稱せらる。

ウラヂカフカズ(Uraschkafkas) ウラヂカフカズはカフカズ山脈の北面テレク河(Terek)畔海拔七百餘米突の地に位し、テレク領土の首府なるがダリアル峙(Darial)の咽喉、軍事上の要域にして交通商業の焦點たり、約四萬四千の人口を有す。

グアム(Guam) グアムはラドロン群島中の一島にして舊とエスバニア領なりしが米西戦争の結果一八九八年合衆國の手に移り太平洋横斷電線の揚陸地たり、本島は五百餘方呎の地積を有し土地は南部に高く北部に低く地味肥沃樹木繁茂し、一萬足らずの住民はココヤシ、パンノキ、稻、甘蔗等の栽培に従事す、首府をアガニ(Agaña)と云ふ。

竹島 竹島は諸處にあれども今此處に問はれたるはフランス人のリアンクール(Liancourt)即ち隱岐の所屬となれる竹島なるべし、日露戦争の際名を揚げし同島は二個の主島と數個の小嶼とより成る群島にして北緯三十七度十四分東經百三十一度五十五分に位す、小嶼は概ね扁平なるが主島は禿岩にして樹木なく海岸急壁をなす、主産物は海豹なり。

アタカマ(Atacama) アタカマはチレ一の州並に沙漠なり、アタカマ州は大西洋に沿ひ東はアルヘンチナと境し、アントファガスタ(Antofagasta)、コキンボ(Cochinbo)兩州の間にありて主として沙漠不毛地より成るが、南部並にアンデス中には沃地なきに非ず、銅、銀、食鹽、硝石等の鑛産に富む、首府をコピアポ(Copiapo)と云ふ、アタカマ沙漠はアントファガスタ、アタカマの二州に亘り海岸よりアンデスの麓に達す、其高隆なる部分は鹽分、礫砂、硝石等の堆積多く、淺地は大なる生々力を與ふ本沙漠の西部多くは實際無雨にして植物は皆無なり。

チアード(Chad) チアード湖は中部アフリカのスーダンにありて、面積は時季に依りて一様ならざるが一萬五千方呎乃至十萬餘方呎と稱せられ、平均海拔は二百五十米突なり、シャリ(Shari)、イェウ(Yeu)の諸流を受くるも表面上排水口を有せず、而も水質淡性に

して二米突乃至六米突の水深を有するに過ぎず、湖中芦類多く生じ魚類、水禽、鱒魚等に富み島嶼少なからず。

漢水 は漢江とも呼び揚子江左岸の主要なる支流なり、水源を秦嶺の嶓冢山に發して漾水と云ひ、沔水を含はせて漢江と云ふ、陝西省の南部漢中地方を東西に緩流したる後本省に入り、襄陽附近に來り南流したる後沙洋附近に於て方向を東西に復し平低の地を緩流し、漢口に於て大江に入る、農産、交通共に偉大なる恩惠を與ふ、水脈たり、支流には吉水、丹河、白河、康河の左岸より會するあり、右岸に南河、蠻河、等あり。

(第十九回文部省檢定地理科本試験)

一 經緯度は如何にして測定するか

第一經度は甲乙兩地の時差(一時間の時差は經度十五度の差に當る)よりして求め得べし、其の法種々あり、即ち午前と午後とに太陽が同じ高さに來る時刻を觀測して之を平均して其の地の正午時とし、既知の地方時を示す時計を用ひて直に其の地の經度を知るを得、或は電信に依りて甲地の時間を乙地に報せしめ之より算出するを得、或は某地に於て今觀察し得る天體現象(月蝕、木星の衛星蝕等)がグリニチに於ては何時に起るかを曆によりて知り、某地とグリニチとの時差を求め、之より經度を算出し得るが如し。

第二緯度の測定に就きても數法あり、今其一二を記さんに一は北極星を用ふるにあり、凡そ或る地の緯度は極の高さに等しきを以て北極星が地平線上に於ける高さを測れば略ぼ其の地の緯度を得べし、但し北極星は眞に極を示すものに過ぎざれば寧ろ圍繞星の最高、最低の兩高度を計り以て其の平均を求め、之を極高即ち其の地の緯

度とすべし、二は正午に於ける太陽の高さを測り既知の赤緯太陽の高さより赤道の高さを減せるものは赤緯に等しを用ひて赤道の高さ赤道の高さと緯度の和は九十度を求め之より緯度を知るにあり。

二 兩極地方に於ける探檢の結果を概説せよ

北極地方の探檢は有利なる海獸の捕獲若しくは大西洋と太平洋とを連結すべき北西通路に北東通路の探檢に原由せしも近時にありて専ら學術上の目的に據るもの多し而して北西通路はマッククリアール(一八五〇―五三)に至りて成功し、北東道路はノルデンシールド(一八七八―七九)に依りて探査を遂げられたり、又北極に近づきし人にして有名なるはカニ(八十六度三十四分)一九〇〇年、ナンセン(八十六度四分)一八九五年等なりとす、此等の探檢に依れば北極洋には三千八百米突以上にも達する深處も存し大西洋より入り來れる暖流ありて北極必ずしも極寒ならざる者の如く、時季に依りては氷海も融解し船舶の通航を許すを知る、南極地方に關してはクック(一七七一―七五)ベリングハウゼン(一八二一)、ビスコー(一八三一)パレニー、チャモンチャルピイコ、キルクス(一八三九―四二)ジェームスロス、ホルヒグレピンク(一八九四―九五)、南

緯八十二度十七分に達せしスコット等あり、此等の諸探檢の結果に従へば北極地方と異なりて約九百萬方呎の大陸あり、エレープス、テロル等の火山聳え熔岩流の存在するも知られしのみならず陸界氣界、生産等に就きて吾人を裨益せしこと北極探檢に於けるが如し。

三 朝鮮の氣候につきて記せ

朝鮮はシベリア並に滿州に連結せる一の半島にして三面に海を控れども、黒潮暖流の餘派は僅に南東の海岸に接觸するに過ぎざるを以て、氣候は概ね大陸的にして夏季には炎暑に苦み冬季には嚴寒を覺ゆ。

年平均氣溫は半島の南部より北部に至るに従ひて減少し、釜山に十四度、仁川に十二度、平壤に十一度なるが、最寒の月は一月にして釜山は三度、仁川は零下三度、平壤は零下五度を示し、北部は寒氣殊に酷烈にして鴨綠江、大同江は三箇月間人馬を通ぜずと云ふ、然れども冬日は三寒四暖と稱し寒日に次ぐに暖日を以てす、氣溫の最も高きは八月にして元山は二十四度に昇り、釜山は之より二度高きのみ。

降雨は夏季に最も多くして屢豪雨の來ることあり、冬は稍乾燥なれども降雨なきに

しもあらず、氣候溫暖なる南東地方は一粉に過ぎざるも北部には三粉に達する處あり、年雨量は元山釜山各約十一粉なるが仁川京城は十粉に過ぎず、風は、夏季南東風多く冬季北西風多し。

四 實例を擧げて地溝の成因を説明せよ

池溝は地殻に生せる二條以上の破綻線間の地が陥没せしによりて生ず、我が琵琶湖及び瀬戸内海等に亘る地帯は地溝と稱すべきものなり、蓋し地溝なるものは地殻に生ぜる裂線に沿ひて土地の陥没せる者なり、今前記の地溝が如何にして成立せしかを考ふるに、日本海方面に起りし横壓力が日本南灣に働きて破綻線を生ぜしめ之よりして地盤の陥落せしに由るは勿論なれども一時一期に止まらず長さ池溝時代間に起りし者なるべく、兎に角最後の陥没は第三紀頃に起れり、何を以て之を知るかと云ふに讃岐の沿岸及び其の他小豆島等の瀬戸内海諸島は孰れも花崗岩より成り以て往時連結せし地盤なるを示すが、花崗岩は第三紀の凝灰岩を以て蔽はれ居ればなり、附記す山脈中に於ける純粹の地溝谷の一例はカリフォルニアに於けるヨセミテ(Yosemite)にして長さは十四軒あるも幅は一乃至二軒に過ぎず深さ一千米突以上あり。

五 人種分類法につきて記せ

人種を分類するには有形性若しくは精神性に從ふにあり、第一精神性即ち無形性は言語文字、社會の如き智力的性質及び道義的性質、信仰的等を含むが言語の同一は直に種族の同一を證せざる場合あるを以て頗る注意せざるべからず、生業が必ずしも種族的ならず文化の進みたるものに惡の存在するあり、下等なる蠻民中にも高尚優美の思想あるが如き亦然り、第二有形性には外觀的、解剖的、生理的、疾病的等あるも終の二者の如きは殆ど人種分類の標準と爲し難く、解剖的性質の如きは有力ならざるに非ざるも研究の困難甚しきが故に古來最も重きを措かるるは外觀的性質なりとす。

外觀的性質の主要なるものは身長、體軀、顔面、眼、鼻、口、頬、皮膚、毛髮等なるべし而して身長は長、中、短の三等とし中數を一米六三と定むるが、最も低きものは中數に及ばざること〇、二六五にして最も高きものとの間には〇、三七五の差あり、體軀に就きては手足の大小、腕と四肢との割合等、顔面に就きては其の形狀、眼は目尻の上下、虹彩の色、鼻は形狀、口の大小、唇の厚薄、頬に關しては顴骨の秀づるか否か等を注意するにあり、

皮膚の色則ち皮色は白、帶黃白、帶褐白、黃褐、紅褐、帶紅白、灰、黑褐、暗黑、黑等種々あり、毛髪には縮毛、鈎毛、波毛、直毛、或は剛毛、柔毛、平毛、或は粗毛、密毛、又は圓毛、隋圓毛あり、黒色、灰色、褐色、栗色、赤色、長髪、短髪等もあり。

此の如くにしてベルニエーは白、黃、黒、赤の四種あるを唱へ、リンネウスはヨーロッパ、アジア、アフリカ、アメリカの四變種を認め、ブルメンバハはコーカシア、モンゴリア、エシオピア、アメリカ、マライの五人種説を主張し、キビーエーはコーカシア、モンゴリア、アフリカの三種説を採り、ビレイは白黒の二種に若干の副種を設けたり、此の外デムドレンの十六種、ポリードセンブエンセンの十五種説、ジェオフロワセンチレルの四人種十三派説、ヘッケルの四人種十三派説、ドカートルファー、ジャ氏の五幹十八枝説、デニケル氏の七群十三種説等枚擧に遑あらず、蓋し白、黃、黒の三人種とマライ、アメリカの二亞種に大別し、派、群、種族と順次細別するは最も可なるべし。

六 膠州灣、アンナム(安南)、セイロン(Ceylon)の政治的

異同を述べよ

膠州灣はドイツの租借地にして其の管理はドイツの海軍省に委ねられ、海軍士官

は總督として青島に駐在す。

アンナムはフランスの保護を受くる王國にしてフランス領印度支那の一部を爲し、專政の君主は吏、戸、禮、兵、刑、工の六部の大臣を率ひてフェ府にあるもフランス政府の派遣に係る高等駐在官は内閣及び樞密院の首長を兼ね、フランス顧問は各部にありて行政を監督す。

セイロンはイギリスの殖民地詳言せば直轄殖民地にして、イギリス王の任命せる知事は行政、立法の二會議に依りて全島の施政を司れり。

此の如くにして膠州灣、アンナム、セイロンの三地は各或る國の外領たる點に於て一致すと雖も、租借地たる膠州灣は租借年間(一八九八年より九九九年間)のみドイツが該地の使用權(主權は尙ほ清國にありて)を有するが、アンナム、セイロンは永久にフランス或はイギリスの勢力の下にあるべき性質を有す、而して保護地たるアンナムには尙ほ舊來の王が或る程度までは内政を行ひ政權の全部を失はざるに反し、セイロンは純然たる外國の領土たるを以て異なる點なりとす。

七 食鹽の主産地及び其の産出の狀態を問ふ

食鹽の主産地はアメリカ合衆國を以て第一としイギリス、ロシア、ドイツ、フランス、印度、エスバニア、エステルライヒ、ウングアルン等の諸地方並其の他の諸地方日本、支那、西部アジア等にも産するが總産額(一八九七年)は一千百二十萬噸と算せられ、一九〇三年に於ける合衆國の産額は約六百萬弗の價格ありたり。

産出の状態に就きて食鹽は廣く海水中に含まるるが故に、我が瀬戸内海沿岸地方に於けるが如く海水を煮て之を製するあり、又降雨稀なる地方に存する鹹湖より得らるるあり、合衆國に於けるが如く鹽井、鹽泉より製出せらるるあり、殊に鹽坑より取得せらるるものもありて存せり、坑道を穿ちて地中の岩鹽を採掘するはポルスカのキエリツカ、エルザス、ロートリンゲンのキツク、デューズ、ドイツのスタスフェールト、スペイン、ベルヒ等各地に行はるる處なるが、殊にキエリツカの鹽坑は宏大にして數百年來盛に採掘せられ、鹽層中に市街ありと評せらるる程なり、而して岩鹽は石膏、粘土等の層と相伴ふものなるが、其の分布は廣くして北アメリカ、ウラル、シフアイツ、の北アルプ、スワローベン、フランスのユラ山脈、ロートリンゲン、モーゼル地方、イギリス、カルパテンの第三紀山脈等にありて多くは志留里亞紀及び石炭紀の地層中にあるものなり。

八 本邦貿易の現況につきて記せ

我が國の貿易は輸出入の全計著しく増加し、明治二十一年の一億三千餘萬圓は明治三十七年に至りて七億二千餘萬圓となり、輸出は三億四千餘萬圓なるに輸入は三億八千餘萬圓なり、此の如く輸入が超過するは近年の常例にして正貨流出の憂あり、而して三十七年の重要輸出品は約九千四百萬圓の生絲、凡そ三千八百萬圓の絹布の外に綿絲、石炭、茶、熟銅、摺付木等ありて摺付木の外は一千萬圓以上なり、輸入品の主なるものは約七千一百萬圓の繰綿、六千萬圓足らずの米に次ぎて鐵及び軟鋼并に其の製品、砂糖、石油等ありて、我が輸出品は半製的若しくは原料的物産多く、輸入品は日常必須のもの最も多し。

取引先の主なるものは合衆國、清國、イギリス、領印度、イギリス、フランス等にして輸出先は合衆國、清國、フランス、香港、イギリス等を主とし、輸入先はイギリス、領印度、イギリス、合衆國、清國、ドイツ等を主なるものとす、而して我が貿易品の輸送は外國船に依頼すること多く、内國商の勢力は未だ振ふに至らず、貿易港は四十餘ありて横濱、神戸の二港は首席を争ひ、兩港の貿易高は貿易總高の六割を占むるが、大阪、門司、長崎、淡水、函

館、口ノ津、臺灣、安平、下關等も其の取引少なからず。

九 左の地につきて知れる所を記せ

イキケ(Iquique) イキケはチレ一のタラパカ(Tarapaca)州の首府にして太平洋に沿ひ港を有す、市街は一八六八年并に一八七七年に於て大なる震災を蒙りしが、目下四萬餘の人口を有し近世風の外觀を呈し内部と鐵道の便多し、輸出物には附近より出づる曹達硝石の外に沃土、銀等あり。

アルジェー(Algiers) アルジェーはアルジェリアの縣及び都會の名なりアルジェー縣はアルジェリア三縣の中部にありて地中海に瀕するが良港少なし、アルジェー市はアルジェリア并にアルジェー縣の首府なり、ブーザリー(Bouzarrea)山の北面に建ちて市の外觀は最もヨーロッパ風に化したりしが舊街と稱せらるる部分は今尙ほ東洋風なり、市内には總督府、圖書館、博物館等あり、防備頗る嚴なり而して港は設備整ひ野菜、果物、穀類、油、熟皮、葡萄酒、羊、獸毛等の輸出盛に行はる、殊に冬季の氣候溫和なれば來遊するもの多し、人口は九萬六千に餘れり。

シンプロン(Simplon) シンプロンはシャヴァイッバレー(Valais)カントンの山にしてナ

ボレオンの建設せし有名なる山道のある處なるが、一八九八年以來墜道の開鑿に着手せられ、一九〇五年に至りて完成せり、長さ一萬九千七百三十呎を以て世界の最長墜道と稱せらる、ロヤヌ河畔のブリーグ(Brieg)附近より南東に向ひイタリアのイゼレ(Izelle)に達す。

通江子 通江子は滿州奉天省にあり、遼河溯航の終點にありて交通、軍事の要地に位し豆類の集散行はれ有望なる商業地たり、人口は三萬に近しと云ふ。

ウルムチ(Urumchi) ウルムチ(烏魯木齊)は迪化とも云ひ清國新疆省の首都たり、人口は一萬五千に過ぎず、市街は天山山系の相迫る處にありて、蔚鬱たる山岳聳えツングル平野と東トルキスタン間の要路を支配す。

マンカッサル(Mascassat) マンカッサルはホルネオ、セレベス間の海峽并に同海峽に沿へる都會なり、後者はセレベス府廳の所在地にしてオランダ領、印度屈指の都會、人口二萬餘なり、港は前に一列の島嶼を控え風波の少なく一八四六年以來自由港たり、市街はオランダ街とマライ街とより成り住民は複雑なるが通商、漁業、造船、小工業等に從事し、殊にラカラワ油、珈琲等を輸出す市の南海岸にロッテルダム砲臺あり。

コンドル島(Pulo condor) コンドル島は漢人の崑崙島なり、メコン河口を距ること約

百八十軒、南支那海にありて山岳多く樹木蒼蔚たる大コンドル島(五五六軒)は平低の地峽に依りて、小コンドルに連なれり、気温は平均二十八度にして降雨少なく湧水に乏しきも米蠶豆を産し馬、牛、水牛、豚、山羊等を飼養し漁産多くして約六百の住人を養ふ、本島は舊とアンナムに屬せしが一七八七年フランスに割讓せられ、其の後流刑地に充てしが一八八二年以來特別行政を布き要塞地と爲すの計畫あり、蓋しシンガポール、香港間の航路に當れるが故ならん。

メシナ(Messina) メシナはイタリアの海峡、并に都會なり、メシナ海峡はシチリア島とイタリア半島の南西端との間にありて幅の最も狭き處は三軒餘に過ぎず、潮流稍強し、メシナ市は海峡に沿ひて良港を有し、メシナ州の首府たり、商業上はバレルモに次ける要地にして絹布の製造行はれ、漁業も亦要用なり、市街の建設は古代にあるも地震、其の他の災害を経て殆ど往古の面影を想はしめず、街衢廣く大學、寺院等見るべきものあり、人口は九萬餘と算せらる。

バプア(Papua) バプアは一にニューギニア(New Guinea)と云ひオーストラリア大陸とトルレス海峡を以て隔れる大島なり、面積は七十七萬餘方軒ありてグリーンランドより小さくボルネオより大なるが、北西より南東に至る長さは二千四百軒ありて

幅は六百六十軒あり、海岸は屈曲に富まざるも北西部にはジールブリンク(Geelvink)ベール(Berou)南東部にはバプア等の灣入あり、半島は北西部のペルーを以て著しとし、屬島はフレデリクヘンドリック(Frederik Hendrik)を最大とす、内部の山岳多く急峻なるも脈は全島を貫きてシールルイー(Charles Louis)五一〇〇、オーヘンスタンレー(Oven Stanley)四〇〇〇等の高山を有せり、河流にはフライ(Ely)ラム(Ramu)等ありて氣候は炎熱多濕、海岸は殊に不健康なり、生物はオーストラリアに類しカンガルーの森林中に棲むあり、羽翹の美を極むる風鳥(Pandiscan)は此の地の特産たり、鑛物は未だ利用せらるること少なし、住民は所謂黑色縮毛のバプア派に屬して文化進まず、地方に依りては赤裸なりと云ふ、人肉を啖ふの風も存せざるに非ず、家屋は坑上に建ち或は樹上に設けらる、土人の栽培するものは稻、玉蜀黍、ヤム、ココヤシ、セゴ甘庶、バナナ等なりとす、政治上は三國に分領せられ、西部はオランダ、北東部はドイツ、南東部はイギリスに屬す。

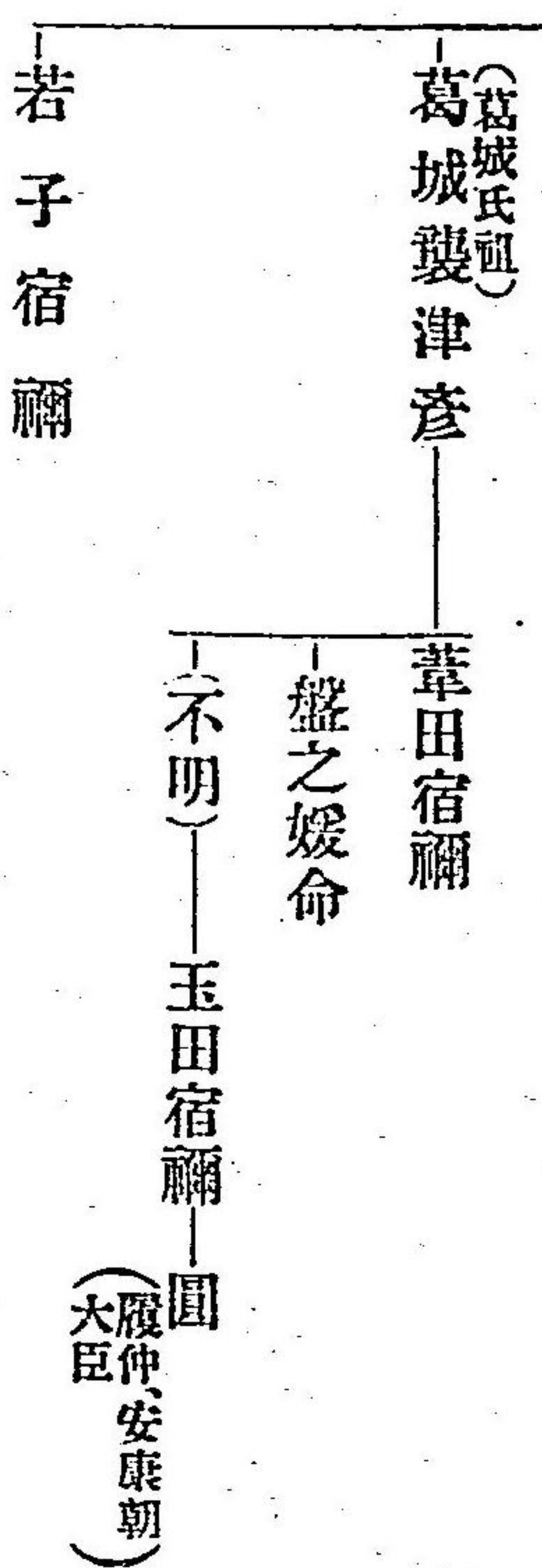
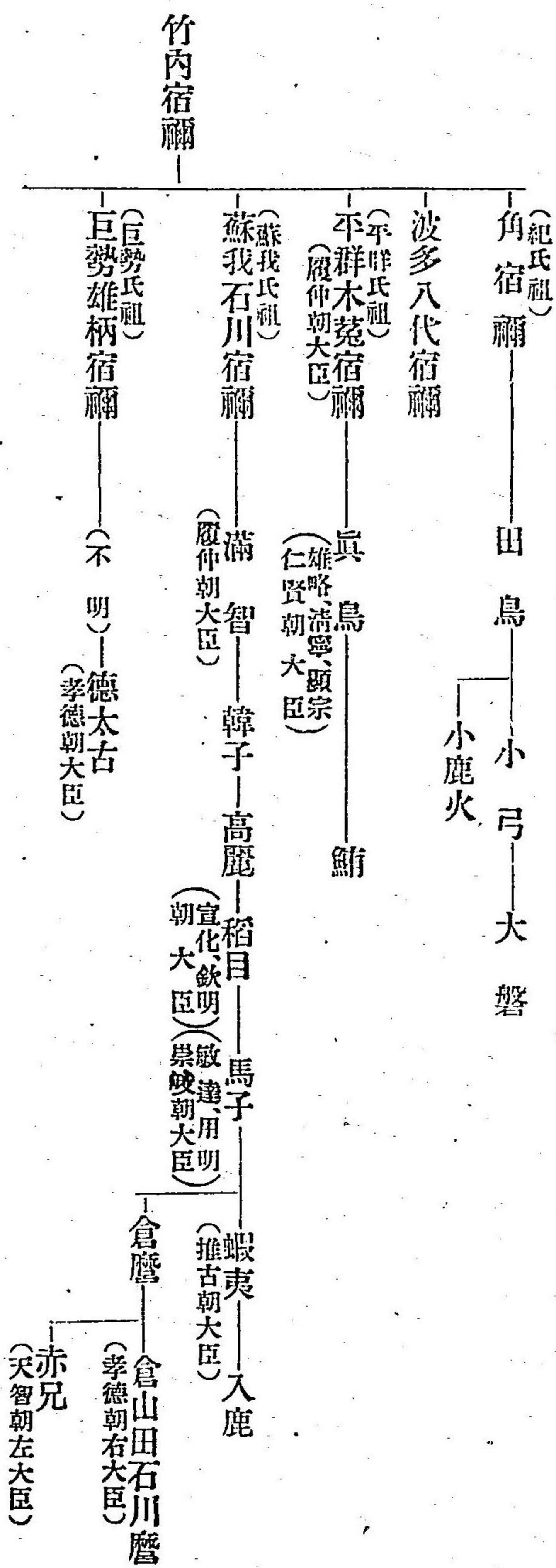
ファンデー(Fundy) ファンデーはアメリカ合衆國の東岸に於ける大西洋の支灣にしてノバスコシア、ブランズウィック兩州の間ありて南方に口を開き長さ約百六十軒幅は四十八軒乃至八十軒に達し水深し、潮汐は十五米突乃至二十一米突に達して世界無比と稱せられ潮流急なり。

(第十九回文部省檢定歴史科豫備試験)

日本史

一 武内宿禰より出てたる著名なる氏族及其執政となりしもの

武内宿禰より出てたる著名なる氏族を紀氏平群氏蘇我氏巨勢氏葛城氏となす、左に其氏族の系譜を掲げ執政者には傍註して題意に答へん。



二 後三年の役

清原武則前九年の役に大功ありしを以て鎮守府將軍に任ぜらる、其孫眞衡に至り勢聲奥羽二州に振ふ、眞衡子なかりしかば平忠安の子成衡を養ひて子とし、源頼義が平致幹の女に生ませたる女を之に配せり、姑夫なる吉彦季武來りて其婚を賀す、會、眞衡客と圍碁して季武を省みざりしかば季武怒りて歸國す、眞衡之を憤り兵を發して季彦を攻む、叔父武衡、弟家衡、異父弟亘理清衡等季武を援く、是に於て奥羽大に亂る、陸奥守源義家は姻戚なる眞衡を扶けて武衡らを攻む、其後主動者たる季武其黨清衡は義家に屬し、又義家の弟義光京より馳せ來り、相合して武衡家衡を攻め、遂に出羽の金澤の柵を破りて之を滅せり、此役たるや白河帝の應德二年より堀河帝の寛治元年に

亘り、凡そ三年を経たるを以て後三年の役と稱す、義家京師に捷を奏せしも、朝廷私闘として功を録せず、是に於て義家私財を投じて將士を稱せしかば、關東武士は、寧朝廷に背くとも源氏に叛く勿れと云ふに至れり、是より阪東は源氏立脚の地盤となりて鎌倉幕府の覇業を成すの根底となれり。

三 足利時代に於ける支那朝鮮との交通

足利尊氏の天龍寺を建つるや、僧疎石元に募縁せんと幕府に請ふて毎年船二艘、錢五千貫を額として航海を始む、之を天龍寺船と稱す、既にして明の元に代るや、屢々使を遣して好を通せんことを勸む、時に懷良親王太宰府にありて征西將軍たりしが、彼れが屬邦を以て我を待たんとするを以て敢て報ぜず、然るに明は僧祖闡等を遣し、太統曆及文綺紗羅を齎らして親王に賜ふ、蓋し明の正朔を奉ぜしめんとするにあり、征西府覺りて之を拘す、明主更に開戦を以て威嚇せしも、征西府之を拒む、其後筑紫の商人肥富某、明國貿易の利を義滿に説くや、應永八年僧祖阿彌等を遣りて明に聘せしむ、明主報聘す、後明の燕王帝位に即くの時また使を遣はせしかば、明主大に喜び義滿を日本國王に封じ約を立て十年一聘、二百人を限る事及び其期に非ず且つ兵器を載せ

來るものは寇を以て論ずべしと、義滿彼の使者を迎へて禮遇甚だ厚し、鎮西に令して海寇の明を犯すものを捕へしめ、諸國の守護に命じ其物産を以て明と貿易せしむ、是に於て兩國の貿易盛に興れり、義滿の喪に明使來朝せしが、義持は臣貢を以て非とし其父の耻を念ふこと深く因て拒みて通せず、是より十餘年交通を絶てり、當時の貿易品は藥種、染料、綿織物等にして其利頗る大なりき、義教に至りて又僧道淵を遣して明に聘す、明主報聘し封爵を授け海寇を禁絶せしめ、信符二百枚を給して勘合とし、大内氏之を管掌せり、義政に至りて又遣明使を發して銅錢を求む、明主錢五萬貫及百川學海法苑珠林等の書を賜はしむ、幾もなくして應仁の亂ありて足利氏の明國交通漸く衰ふ、義輝の時海寇特に甚しく明より屢々之を禁戢せむことを請へり、要するに足利氏は倭寇の警あるに拘らず其十三世を通じて明に交通せり、明の年號を用ひ封冊を受けしは足利氏の失態たるに相違なきも、貿易の利を得て財政を調理し、彼我の往來によりて醫學、曆算、文學、美術等に多大の發展を促し、所謂東山時代の文華をなすに至りたるものなり。

朝鮮との交通も足利義滿の時に至りて漸く盛となり、朝鮮の太祖僧覺錫を我に遣し海寇を禁じ隣交を修せむことを請ふ、太祖又重ねて秘書監朴敦之を遣して前請を申

ねしむ、義滿其禮を厚うして來聘したるを悦び使者を優遇して遣歸せしむ、是より彼此の通交絶ゆることなし、然れども海寇の侵掠熾まざるを怒り、朝鮮は援を難頼に請ひ、李從茂等をして船艦五百艘を率ゐて對馬を襲ひ却て大敗したり、是に於て對島の宗氏に謝して和親を結び以て海寇の侵掠を止めんと欲し、李藝を遣して宗貞盛に議せしめ修交再び成れり、世宗貿易勘合章を宗氏に賜り毎歲我より船五十艘を送り米豆二萬石を得るを限りとし、西南諸州の船舶朝鮮に至るもの皆宗氏の紹介文引を要す、然れども海寇の警は豊臣氏に至るまで絶ゆることなかりき、其交通に於ける利益も明國と同じく、或は大藏經を求め、或は國內諸寺の建築費を彼に求めたる等、經濟上の利益尠からざりしと云ふ。

四 左の人々の事蹟

甲 菅原是善 乙 二條良基 丙 伊能忠敬 丁 僧慈鎮

菅原是善 は從三位清公の子なり、幼にして父祖の業を傳ふ、弘仁の末殿上に侍せり時に年十一、承和の初め文章得業生に補し從六位下に叙せられ、累進して文章博士兼東宮學士となる、文德帝の即位に及び正五位下に進み仁壽三年大學頭となる、尋い

て禪正大弼、刑部卿を歴て參議に轉じ、從三位に進みて元慶四年に薨ず年六十九、かつて諭を奉じて都良香等と文德實錄十卷を選し、又自ら東宮切韻二十卷、銀勝輪律十卷、集韻律詩十卷、會文類集七十卷を選し、別に家集十卷あり、その第三子を道眞とす。

二條良基 は關白左大臣道平の子なり、嘉曆二年正五位下權中納言に累遷し、内大臣左右大臣を歴て、關白氏長者となり、太政大臣從一位に至る、天授二年三宮に準せられ、弘和二年攝政となり、元中四年職を辭し五年再び攝政となり、又關白となり、尋いて薨ず年六十九、諡して後普光園院といふ、著書に御禮記、百寮訓要抄、神葉日記、小島口號、貞治御鞠記、諒闇記、大嘗會記、雲井御法、白鷹記、山鳥の慰、菟玖波集、魚鳥平家、小夜寢覺等あり、良基かつて頓阿を召して和歌の奥旨を論じ、之を筆記して愚問賢註を著す、七子あり、長師長嗣ぐ。

伊能忠敬 字は子齋、東河と號し、晩に勘解由と稱せり、もと神保氏なりしが伊能氏に養はる、夙に歷數の學を好み、力を肆にして之に従事せむと欲すれども家道頗る衰へて其志を得ず、寛政六年決然産を子景敬に委ね、ひとり都に出て高橋東岡に就き西洋曆法を學ぶ、而して推歩測量の精當時ひとり忠敬を推すに至れり、後幕命を奉じて五畿七道跋涉せざるなく、盡く測量して之を圖記す、宇内輿地全圖及び度數譜行程

記を修定す、文化四年四月圖成りて歿す、年七十七、著すところ國郡晝夜時刻對數表、紀源術、並に用法、求割圓八線法、紀源法、地球測遠術問答等あり、明治十六年二月正四位を贈らる。

僧慈鎮 は天台の座主にして、初の名は道快、大僧正に叙せられて慈圓と改む、關白忠通の子なりしが、性學を好み、苟も一技一能あるものは賤夫野人と雖も賑郵して棄てず、信濃前司行長博學の名あり、後遁世す、慈鎮爲に衣食を給して救助す、故に其平家物語を著はすや、山門の事を優記して其恩に報ふと云ふ、著はす所愚管抄ありて歴史の參考に益あり、嘉祿元年九月二十五日寂す、年七十一、嘉禎三年慈鎮と諡す、又た和歌を能くす集を拾玉集と云ふ。

東洋史

一 漢より唐まで歷朝の建國者の姓名

漢高祖或は高帝と稱す、諱は邦字は季、後漢光武皇帝、諱は秀字は文叔、蜀烈帝、諱は備、魏文帝、諱は丕、吳太帝、諱は權、西晉武帝、諱は炎

東晉元帝、諱は睿字は景文、宋武帝、姓は劉名は裕、北魏道武帝、諱は珪、東魏孝靜帝、諱は善見、西魏孝武帝、諱は修後、齊高帝、諱は道成、梁武帝、諱は衍、北齊文宣帝、諱は洋、後周孝愍帝、諱は覺、陳武帝、諱は霸、先、隋文帝、諱は堅、唐高祖、諱は淵字は叔德

二 元の太宗の大征伐

即位の二年(西紀一二三〇年)八月師旅を發して金の保土塞を陥れ、鳳翔城を下し、紹定四年(西紀一三二一年)五年續て金を攻め終に宋と合して金兵を蔡州城に破り、趙州城を下し、遼の遺族の建てたる大遼を降し、次で高麗を攻めて之れに勝てり。戰勝の餘威に乗せる太宗は太祖成吉思汗の遺謀を奉じ、端平三年(西紀一三三三年)求赤の子拔都を將とし、其兄幹耳朶、巳の子貴山、拖雷の子蒙哥等と共に五十万の大軍を師ひ行きて阿羅思を征せり。此行先づ速不台を先鋒とし、亦的勒河(今カワオ)を渡り、不耳阿耳を陥れ、蒙哥は欽察を攻め、拔都は北に向ひて烈野贊を屠り、大舉して莫斯科ノブゴロツドを陥れ、更に南に轉じて幾富を焼き、阿羅思は彼等が豫期の如くに蹂躪したり。それより彼等は鋒を轉し、歐州の内地に迫り、一軍は馬托兒(今カワオ)より禿納河を濟り、一軍は孛烈

兒(今の波)よりシレジアを侵し、到る所殺掠を恣にし、歐北諸侯王の連合軍をリレグニツクに逆撃し、歐州全土をして震撼せしも。捏ニミツ迷思獨逸以下諸邦の民荷擔して遁れざるはなし。偶々太宗崩して訃音軍中に達し、此大征伐はこゝに中止するの止むを得ざるに至り、蒙古の大軍は東歸したりと雖も、拔都は自ら留まり、禿納の下流太和嶺北の地を領し、亦的勒河畔の薩來サライに都して金黨國シムルカを建てたり。實に西紀一二三六年より四三年に至る間の事なりとす。

三 英人の阿富汗戦争

近世に於ける英國對阿富汗戦争は第一回と第二回とあり、此戦争を記するに當りて、先づ注意すべきは中央亞細亞に於ける英露の衝突其度を高め來れる事なり。十八世紀の末葉阿富汗王アーメッド歿するや王位相續の争屢々起りたり、一八二六年ドストムハメッド之れに乘じ可不里カブアイに起りて終に阿富汗を統一せしかば、アーメッドの子孫は印度に逃れて英政府の保護の下に隱る、ドストムハメッド是を以て英國と快からず。次てシツクシク教徒を伐ちてベシヤワールを占領せんとしに英國復た之れを拒めり。此時一方に於ては露國來りて修交を求め使を可不里に遣れり。乃

ち戦備を修め英國に抗す。印度總督アウクランドは兵を阿富汗に出し、乾陀羅ガンダハラ哥疾寧カヂニを取り遂に可不里を陥れ、アーメッドの孫シャイジュヤシャイジュヤを立て、阿富汗王位に即かしむ。然れども國人服せず、英軍の歸路を絶ちて又戦ひ英軍を屢殺したり。一八四二年和を媾し平事ぐ之れを第一阿富汗戦争となす。已にして露國は愈々南下し英國之が防歴を試み、一八六九年印度總督メーヨはドストムハメッドの子シエルアリシエルアリと同盟を結びしが、シエルアリの其子ヤクブ汗と争ふや英國陰にヤクブ汗を援く兩國の交情また舊の如くならず。露の中將コーフマン之に乗じて使者を可不里に遣し、一八七八年攻守同盟を結びたり。英國之れを見て大に怒り總督リットン開戦を布告す。此戦争に於てシエルアリ敗北す英國はヤクブ汗を擁立して阿富汗王となし、英國と和す實に一八七九年なり。之を第二回の阿富汗戦争となす。爾後阿富汗王は英國の承認なくして他國と宣戰媾和せざることを約したり。

四 左の人々の事蹟

甲 杜預 乙 李舜臣 丙 アクバル帝 丁 蘇軾

杜預 は西晋の武帝に仕へて鎮南大將軍となり、半祐に代りて荊州の軍事を都督

す經典に精しく左氏傳に注す、其文辭精細活躍周末の歴史を録せると共に當時の文學を大成せり太康五年(西歷二八四年)卒す。

李舜臣 は忠清道徳山の人なり、文祿元年(明萬曆廿年西歷一五九二年)秀吉征韓の際全羅左水軍節度使たり、藤堂高虎、加藤嘉明等の如き見乃梁にて彼の爲に大に苦しめらる。慶長二年(明萬曆二十五年)征韓後役の起らんとせし時舜臣元均と隙あり罪せられて京城に監禁せらる。後ち擧げられて統制使となり古今島、全羅康津縣の南にて明の舟師都督陣璘と共に日本の水軍と戦ひしが、南海島觀音浦の役にて飛丸胸に當り死す、右議政の位を贈らる。

アクバル帝・西歷十六世紀の末葉に莫臥兒帝國大に亂る、一五五六年帝フエーマンはカムラーンを破り阿富汗及巴達克山の地を恢復せり、アクバル帝はフエーマンの子なり英邁にして雄略あり。一五八六年アトックに駐輦し兵を分遣して迦濕彌羅及阿富汗の叛徒を征服し一五八七年再征して之を領す。これより帝は都をデールの東南なるアグラに定め封建の制を定め田租の法を改む。武備文事兩つ乍ら備りたるが、就中帝が非回教徒税を廢して溫都教徒の心を結び以て阿富汗人が建設せし回教國を征服し莫臥兒帝國の根底を確立せしは其尤も有名なるもの一なり。

莫臥兒帝國は斯の如くして阿母河以南賓都耶山以北の廣大なる範圍を有したり。蘇軾 字は子瞻東坡と號す、好んで莊子賈誼陸贄の書を読み博く經史に通ぜり、神宗の朝王安石と議論合はざるを以て書を上り外を請ふて杭州通判となる。烏臺の詩案に坐して臺獄に下され、姑くして許されて黃州に貶謫せらる。前後赤壁の賦の成れるは、此時なりと云ふ。哲宗即位し起居舍人に擢てられ、尋いて翰林學士に叙せられ便殿に召對す、建中靖國元年卒す年六十六。蘇軾筆鋒精銳書畫亦長所あり、詞は北派の先として麗にして壯と稱せらる。

西洋史

一 スイス同盟がハプスブルク家の管轄を脱せし顛末

モルガルテンの戦争後即ち一三八六年スイス同盟はハプスブルク家の範圍を脱して皇帝の權に従ふとせなれり、蓋し國人に取りては皇帝の權に従ふは自由を得易きが故なり。然れどもスイスは其地勢上佛蘭西獨逸奧太利伊太利等四隣の地と競争せざる可からざる位置に在り、且つ國內數多の州 Cantons は言語風俗等の點に於て一致する所あらず、中央集權の實や、もすれば行はれず、一四九九年皇帝マキシミリ

アン一世來り侵す然れども勝たず斯くの如くスイス同盟がハプスブルグ家の管轄を脱せしは其源實に千五百年代に在りと雖も、ハプスブルグ家がスイスの獨立を承認したるは實に一六四八年に於けるウエストフツリア大會の後なりとす。

二 ナポレオン一世とプロシアとの關係

一七九一年六月佛王及其一族の巴里を脱してメツトに走りしより、フランスのプロシアに對する民情穩かならず、既にして一七九五年バーゼル條約締結せらるゝや、プロシアは終に中立の位置に立ちしも、其實フランスはプロシアをして自ら國境を擴めてライン河岸に至るを承諾せしめたり、既にしてナポレオン一世の威勢漸く盛にしてイタリアを破りオーストリアを破るや、一八〇三年ナポレオン一世は英國に説き以てプロシアを責めんとし自らハノアを占領す。

是れより先き、普王フレデリックウィリアム三世は佛奧兩國交戰中極めて曖昧なる態度を取りし爲め列國の猜疑を招きしが、戰終るに臨み佛國政府の輕侮愈々甚だしく、若しプロシアにしてハノアを與へるなれば恕すべし然らずんば軍を進めんと。プロシア遂に堪ゆる能はず、一八〇六年十月プロシアはナポレオンに對し開戦すブル

シア大敗北し其結果プロシアはナポレオン一世の爲に内政迄も干渉せらるるに至れり。

三 左の語の解釋

甲 コミチアケンツリアタ 乙 選帝侯 丙 モンロー主義

コミチアケンツリアタ (Comitia Centuriata)

紀元前五一〇年羅馬は王政を廢して共和政體となる。コミチアケンツリアタは共和時代の軍隊會議なり。此會議の時先きに勢力ありしコミチアキュリアタは貴族の會となり、又其會議に於て財産の多き人票決權を得しに反しコミチアケンツリアタは法律を撰定し各軍隊毎に票決し、以て宣戰媾和を議し、又コンツル及び其他の高等官を撰決したり。法律撰定に關しては別にコミチアツリブユタ即ち羅馬の平民會議あり、後には市民全體の會議となりしが共和時代の初期に於てはコミチアケンツリユタ最も勢力ありたり。

選帝侯 (Elector Kurfurst)

獨逸の七大諸侯中皇帝を撰擧する諸侯を選帝侯と稱するなり、元來獨逸にては上

世民選君主なりしも主權漸く強くして教皇と諸侯と之を恐れ其極撰王の權を貴族に託せしより此の如き次第となりしものにて、七大諸侯とは(1)マインツ(2)ケルン(3)トリエルの三大僧正(4)サクセン公(アルナルドの得し小公國)(5)ブランデンブルクのマルクグラフ(6)ラインのバルツグラフ(7)バイメン王なり而して此の七人各選舉權を有したり、三大僧正は各獨逸ガリア及ブルガンディア伊太利の大宰にして、四侯伯は古のフランケン バイエルン サクセン ロトリゲン四公家に代りて顯職を得、其權勢優に他の貴族に勝れしなり。

モンロー主義(The Monroe Doctrine)

西曆一千八百二十三年北米合衆國の大統領モンロー(Monroe)氏が發せし教書にして米國の事件は米國自ら之れを處分し決して歐州諸國の干涉を許さず若し之に干涉する國あらば之れ米國共同南北アメリカ全體の敵と見做して飽く迄ても之に抵抗せん、然れども米國は亦米國以外の事件に干涉すること無かる可しと、是の主意は拾數年前迄て實行せられし北米合衆國外交の大方針にして當時に於ける葡萄牙、西班牙と殖民地の獨立を確めたるのみならず其時以後七十余年間の大方針となれり。

四 左の人々の事蹟

甲 クリステネス 乙 ベリザリウス 丙 セレツプス

クリステネス (Clisthenes)

アルクメオニツド家の首領にしてアゼンス民主黨の爲に憲法を改革す、其結果アルコン宮作られアツチカの住民は凡て公民として許され、又ソロンの創めし四百人會議はクリステネスの力に依り五百人に増され、各種族は各五十人宛を出席せしめたり、是れ平民の權次第に増加したる現象なり、彼はペリクレスの伯父にして紀元前五一〇年暴君ヒッピアスを公衆の投票に依り國外に追放す、貝殼裁判之より始まる。

ベリザリウス (Belisarius)

東羅馬皇帝ヂヤスチニアンに用ゐられし名將にしてアフリカの北部を征服しイタリアを東羅馬に服屬せしめ、又ベルシア王コスロース一世(五三一—五七九年)及コトバットと戦ひ大に之れを敗り、五三三年終に永期平和の條約をなす、其實際は僅かに七年なりしと雖も彼がヂヤスチニアン帝を助けてベルシヤを苦しめしは實際なり、彼はコンスタンチノールを救はんが爲めブルガリア人と戦て勝つ。

レセツプス (Lesseps)

佛蘭西の外交家なり、一八〇五年バルセイユに生る、一八五四年地中海と紅海とを

連絡せんと計畫し遂に一八六九年成功す、スエズ運河是れなり。氏は又パナマ運河も開鑿せんと計畫せしが果たさずして一八九四年死す。

(第十九回文部省檢定歴史科本試験問題)

日本史

一 延喜時代に於ける地方衰弊の事例

藤氏攝關の時代となりては官職世襲の風となり、門閥家は別業を京師の勝地に營み、詩歌管絃射騎遊獵を娛樂とし、舉世文弱に流れ、財政缺乏し、兵制弛廢せり、而も延喜時代に於ける地方の状態は之に反して衰弊殊に甚しく、(一)國司等官稻私物を出舉し、百姓に其利を貪りて民田宅地を沒收し、(二)院宮諸王諸臣の權力者は子孫を畿外に居住せしめて百姓を凌夷し、掠奪の舉動多く、(三)畿外の奸民は權門勢家に媚託して京師の戸籍を冒し、勢家は之れに因て民田を占買して正税を入れず、(四)莊園増加して朝廷の收入を減じ、(五)賣官の風盛に行はれて上下の收斂殊に苛重なり。時に醍醐帝政治に精勵し、百姓の窮狀を察して、先づ左大臣時平らと謀りて京師驕奢の風を誡むると雖も、全く之を制止するを得ざりき、三善清行の如きは時弊に關する

意見十二條を上りて驕奢の極、用度の空耗を切諫し、も行はるゝに至らず、是に至りて阪東其他の諸國に盜賊頻りに起り、國內多事なるに至れり、蓋し平安京の治は延喜天曆に至りて其盛を極めしと雖も、地方の衰狀を推するに天慶保元の亂既に其兆をなせるものと云ふべし。

二 徳川時代に於ける外國交通禁制の原因

徳川氏の豊臣氏に代るや、内國の事未だ平定せざるを以て意を外教に注ぐに専らならず、天主教の禁漸く弛み、外人の來航増加すると共に、信者従つて其數を加ふるに至れり、然るに慶長十六年和蘭船が葡萄牙船一艘を捕獲し、船中に徳川幕府、顛覆の密書を得たりとて之を幕府に奉れり、蓋し蘭人が東洋貿易の商權を獨占せんとして捏造せしものなるやも知るべからず、而して是より先幕府は葡人宣教師の 에스 イット 教を弘布するに一種の野心あるが如くに疑懼せし際なりしかば、直に之を信じて布教を嚴禁し、寛永十年に鎖國の令を發して之を警戒したりしが、同十四年教徒等肥前の島原に亂を起し、一時天下の耳目を驚かしむ、之より外教に對するの禁益々緊密となり、延いて外國貿易及び外國船の來航を禁ずるに至れり、唯だ蘭人のみ宗教に關せず

して我に好意を表ししを以て、長崎出島に居留地を置き貿易せしめ以て幕末に及び、而して邦人に對しては外國渡海を禁じ、寛永二年には五百石以上の大船を送るを禁止せしかば、爾來邦人の海事思想は全く阻止せらるるに至りたり。

三 明德の亂

山名氏は足利家の元勳にして勢威を中國に振ふ、氏清に至りて其宗族時熙、氏之を將軍義滿に讒して撃ちて之を平げ、明德の頃其所領十一國に亘る、依て世に之を六分一殿と云ふ、海内六分一を占むるの意、この時細川頼之又起ちて幕府に入りて管領となり諸將の強梗なるものを削除せんとす、會、將軍義滿は義熙、氏之を釋せしかば、氏清之を憚ばず、滿幸、氏清の甥、之に乗じて、氏清に反を勸め、遂に兄義理に強めて共に兵を擧げて京に向ふ、(後小松帝明德二年)義滿京の内野に出陣して之を破り、一色詮範、氏清を斬り、大内義弘進て山名義理を攻て、紀伊をとり、畠山基國、河内を取る、乃ち諸將をして山名の所領を分管せしめ、以て守護稍平衡を得たり、是より幕府の威力大に擧る、之を明德の亂と云ふ。

四 左の名稱の解釋

甲 引付衆 乙 成功 丙 德政

引付衆 頼朝兵馬の大權其手に歸するや、公文所を設け政務を統べ、次て是を政所と稱す、其庶政を決斷するに評定衆ありて、政所、問注所、執事等之を攝し、以て政務を評議す、建長元年引付衆五人を置き、評定衆を扶け、ともに政務を執らしむ、又引付頭三番を置き、引付衆を以て之に屬せしむ、爾後評定引付の兩衆執權連署を補佐し、専ら政務を議す、引付衆の主掌は訟獄其他の公事にして、また諸奉行の職を兼帶するものなり、引付の稱は記録即ち簿書の名より出づ、そは政所にて訟獄の顛末を註し、その奉行の名を傍記するものを賦名引付と稱し、其他の諸事記録の後證となるべきものを引付と稱す、引は導引にして、其の前導として書記に付するの義なりと云ふ。

成功 とは造宮造寺其他臨時公用の時私物を上納し、其功を成したる由りて官を申し請ふを云ふ、此風は延喜以後王綱廢弛し、莊園天下に洽くして、官庫空乏せしより起り、之に因て社會上下の秩序を亂せり、蓋し賣官の一種にして、其弊少からざりき。

德政 とは刑律に赦典あるが如く、法に觸れて窮困するものを救ふの主意より出、政府より貧民に貸稻を免除する如き仁政を稱し、古くは桓武延暦年間の史にも見へたり、後宇多天帝の時、德政六條を發布し、天子一代に一度之を行ふを例とす、然るに

鎌倉時代に入りては此法少しく變じて上より一度徳政を命令するときは、從來の貸借の契約は悉く無効となり、質入の土地物品等は其價を辨償せずして本の所有主に返付する事となり、經濟界の紊亂を來たすや言を俟たず、此弊風の起りは伏見天皇の永仁五年北條貞時の執權たりし時、元寇の亂後經濟界の亂調なるときに之を行ひ、其後足利時代には幕府は富豪より借財して恣に此法を發して幕府の財政を救へり、義勝の時京師に徳政の暴徒起り福利平均の説を唱ふるあり、或は官吏の土地を賣りて之を取回さんとて土民を教唆して騷亂大和に及びたるなど益々弊害を生ずるに至れり。

五 左の人々の事蹟

甲 境部臣摩理勢 乙 松平信明 丙 三浦泰村 丁 僧覺鑊

境部臣摩理勢 は推古朝の人なり、厩戸皇太子薨去の後未だ皇嗣を定むるに及ばずして帝崩ず、是に於て前太子の子山背大兄王と敏達帝の嫡孫たる田村皇子とは孰れも皇嗣たるべきの理ありて群議決せず、ときに蘇我馬子の子蝦夷大臣たり、馬子の弟摩理勢と皇嗣を議するに、摩理勢は山背大兄王を立てんと建言せしも、蝦夷之に賛

せず遺旨と稱して田村皇子を立てんとす、摩理勢堅く前言をとりて動かさず、遂に斑鳩に走り泊瀬王の宮に匿れしが、蝦夷の請ひによりて大兄王摩理勢を諭して家に歸らしむ、十余日にして泊瀬王薨す、摩理勢嘆して曰く我生て何をか恃まんと、蝦夷兵を遣して摩理勢を殺して田村皇子を立つ、蓋し兩皇子に關する遺旨に就きて史論あるも、摩理勢が先帝の殊遇を承け其遺旨を守りて動かざりしは眞に努めたりと云ふべし。

松平信明 は徳川家齊に仕へ常に忠直を以て聞ゆ、年齒二十四未だ御側用人たりし時、家齋一日近習の者をして庭前に假山盆池を造らしむ、信明諫めて曰く天下國家の治者たるべきものは徒に斯る鎖事に心力を勞し給ふ勿れと、家齋之を嘉納し遠大の器なりとして連署の列に擧げられ、次で執政の職を命ぜらる、家齊は實父一橋治齊を西城に遷して大御所の尊號を贈らんとせし時、信明は松平越中守定信らと之を苦諫して止む、然れども家齊の親政となるや、治濟忽ち勢力を得て漸々政務に容喙するに至り、殊に一橋附家老久岡縫殿頭の勢漸く盛ならんし、先に定信等の制定せし所も往々破棄らるゝを以て信明之を慨し、久岡を治濟の手より離さんとし、強て大目付に彼を擧げ之が爲に信明も職を去るに至れり、然るに定信は我等職を去るも伊豆守(信明)あれば又顧慮する所なしと信任せし程の信明なれば、定信之を默視する能はず、三

家に謀りて彼を復職せしめたり是より先露人屢北海を騷がせしかば定信は信明と共に房總の沿岸を巡視して要所に砲臺を築かしむる等頗る時勢に適切なる施設あり、蓋し信明は定信と共に家齊を輔翼し、倉庫充實民庶殷富徳川氏の盛此に至りて極りと云ふべし。

三浦泰村 は義村の長子にして駿河二郎と稱す、承久の役年十八奮戦甚だ力め功を以て正五位下若狹守となり、嘉禎中評定衆たり、北條時頼政を乗るに及びて最も親遇せられ威勢頗る大なり、將軍頼經の廢せらるゝや弟光村潜に北條氏を滅ぼして其位を復せんとし數々義村に勸む、泰村猶豫して決せず、北條氏も亦頗る之を疑ふ、偶々安達景盛は泰村と權を争ひて兵を交ふ、時頼止を得ず兵を出して泰村を攻む、泰村遂に支ふる能はずして法華堂に遁る、弟光村も亦來り力戰陣を衝いて法華堂に會し、宗族二百七十六人兵士二百餘人皆頼朝の墓前に自殺す、是に至りて三浦氏滅ぶ。

僧覺鑊 は高僧にして正覺と號し、肥前の人、俗姓は平氏、桓武天皇五世の孫とす、鑊童稚の時收吏其家に來り租を促して督責急なり、此の時家に一僧あり鑊問ひて曰く彼れ何ぞ我父を辱しむる、僧曰官吏にして刺史の差遣する所なり凡そ九州の内皆命を刺史に聞く、鑊曰く我れ謂らく天下の貴き我父に如くはなしと猶ほ刺史なるもの

ありや、然らば最尊無上のものは何ぞ、僧曰く佛に過ぎたるものなしと、是より出塵の志ありて興福寺の慧曉法師に唯識を學び、仁和寺に秘密灌頂をうけ、後高野に上り定尊阿闍梨に侍して密乘の蘊奧を極む、傳法院を建てんと欲して之を朝に奏す、朝廷莊田を賜ひて僧膳に充つ、行化頗る高く異跡甚だ著し、相國藤原忠通等歸依深し、鑊天性書を能し又梵書を善して其名當時に高し。

東洋史

一 佛法の興起

釋迦牟尼の滅後高弟摩訶迦葉は佛弟子五百人を王舎城に會せしめ遺教に對して證典を定めたり、所謂第一回の結集にして西紀前四七八年とす。其後百年邪舎陀亦僧衆七百人を毘舍離に集め、第二回の結集をなす。佛教は年と共に興起せしも釋迦滅後二百年間は其勢力尙恒河流域の外に出でざりき。其後旃陀羅笈多の孫阿輸伽王即位の十八年詔して華子城に於て一千人の僧衆相會し、帝須の首長の下に九ヶ月間合誦せられたり、之れを第三回の結集とす。阿輸伽王は羅馬のコンスタンチン帝の如く厚く佛法を保護せしを以て、王の時其の佛教徒は盛んに國外傳道を試みたり。

第三回の結集後佛教は二派に分れ、南派は南海を越へて獅子國(錫蘭)に入り、又馬來半島の諸國に及び終に小乗となり、北派は大月氏に進み大乘となる。大月氏の王迦賦色迦は後漢の初に出て、深く佛教に歸依し罽賓にて五百人の僧衆を集め、第四回の結集を開きしと云ふ。但し此時南方佛教徒は與らず、獅子國を中心として遙かに南北相對したり。北方佛教には馬鳴龍樹等の如き高僧あり、其教理學説は今日に至るも猶ほ熾に研究せらる、是より約六百年を経て支那唐朝に入りて支那佛教の興隆其極に達し、又約六百年を経て我國鎌倉の佛教となり禪學の興起を見るに至れり。

二 清の太祖の創業

蒙古一度び金を討滅してより、通古斯族は久しく沈淪して復た聞ゆる者なかりしに、明の時今の盛京の東北に居る滿洲部より覺羅部出づ。世々寧古塔の西南なる鄂多理に居る、西紀千四百年の頃今の興京なる赫圖阿拉に移り部落漸く繁殖し西紀一五八三年努爾哈赤其部長となるに及んで更に大に興れり。即ち彼は甲兵百人を以て起り先づ通古斯族の扈倫、長白山及科爾沁の諸部を攻めたり。一五九一年扈倫等其の害を恐れ相連合して來り攻めしが、反つて大敗し皆前後して努爾哈赤に降れり。

是に於て一六一四年遂に國號を建て滿州と云ひ皇帝を稱す、清の太祖是なり。一六一九年扈倫部中に葉赫部あり、其強を負ふて獨り降らざりしが故太祖自ら將となり之を撃つ葉赫部援を明に請ひ又朝鮮の援兵を加へ合して三十二萬を得以て之に當れり、然れども太祖は反對に葉赫部を渾河畔に破り、進みて潘陽(奉天府)を陥れ都をこゝに奠めたり、時に西紀一六二三年なり、此後八年太祖崩す。

三 左の戦争の始末

甲 漢の武帝大宛征伐 乙 アンゴラの戰 丙 パーニバットの第三次の戰
漢の武帝大宛征伐 武帝最初の目的は善馬を求めんとしたるに在り、即ち大宛の都府貳師城には善馬を産するを以て、武帝之れを得んとし、大初元年(西紀前百〇四年)使を遣はしたるも大宛之れに應ぜず、のみならず、漢の使者を殺したり。武帝之を怒り李廣利を貳師將軍とし、數万の無賴漢を驅りて大宛に向はしむ、然れども此結果良好ならずしを以て、大初三年再び大兵を授けて、之に向はしめたり。大宛終に屈服し、大宛王母寡を殺し、馬を獻じ以て其兵を止めんことを乞ふ。然れど漢にして若し聞かずんば、大宛は康居を引て同盟し、更に漢に抗せんと、李廣利其議を容れ休戦し、善

馬三千餘頭を得て歸る。以來漢の威漸く中央亞細亞に顯著なるに至れり。

アンゴラの戰 西紀一三八九年阿斯曼のバシヤゼット土耳其古帝位を嗣ぎドナウ兩岸の地を定め進んでギリシヤを畧し小亞細亞を取りスルタンの號を用ゐ、且つ埃及の算端と通じ帖木兒を夾撃して地を東に擴めんと計りたり。此時ギリシヤ帝國は救を帖木兒に求めしに、帖木兒は軍を印度より旋しゲオルギアの亂を平げ、更に埃及軍をシリアに破りて北進す。バシヤゼット急にコンスタンチノールの圍を解きて小亞細亞に入り、四十万の兵を率ひ西紀一四〇二年アナトリア台地のアンゴラにて兩軍相會し大戰す。此役バシヤゼットの軍利あらず、大敗し太子スレイマンは逃れ去りしも、バシヤゼットは擒にせらる、時に一四〇四年なり。蓋し帖木兒固より回教を奉ずと雖も、それは波斯のシヤ派に屬し埃及シリアに行はるゝサンナ派と相敵視するが故にアンゴラの戰は一種の宗教戰爭と見るを得べきなり。

パーニバットの第三次の戰 パーニバットはカイパールバツスとデリーとの要路に在り。西紀一七六一年一月七日阿富汗帝アーマツシア、アブダイの大軍と莫臥兒の宰相ガジウツヂン(Ghaji-uddin)と此地に戰ふ、莫臥兒の軍は步騎七万砲三百門あり、阿富汗の軍亦之れに伯仲すれども、歩兵に於て既に一万を超過し士氣大に振ふ、此

役ガジウツヂンはマールタ族の援助ありしも、終に敗北して其將スタシオラオ以下兵二万餘人戰場に斃る而して其の源因は時の莫臥兒帝アラムジールが亞富汗帝と謀を通ずるの事實あり、宰相之れを發見し怒りて皇帝を弑したるに因ると云ふ。此戰爭はマハバルト以來未曾有の大激戰にしてマールタ族の敗北は實に莫臥兒帝室に取りては致命の大打撃なりしなり、戰爭の結果阿富汗王アーマツシア、アブダイはバンシヤブムルタン等を占領し其權威西北印度一帯に及ぶ。

四 左の人々の事蹟

- 甲 田横
- 乙 歐陽修
- 丙 ホルヤコフ
- 丁 利瑪竇

田横 西紀前二百五年頃の人にして齊王田榮の弟なり、項羽大舉して齊に侵入し來るや、田横即ち田榮の餘兵を收め以て項羽と戰ひたり。偶々漢の劉邦楚軍を破つて彭城に入りしかば、羽の軍退去し、田横は齊の城邑を防禦する事を得たり。田横即ち其子の廣を立て、齊王となし、自ら相たりしが、後、廣韓信の爲に虜にせられ、死せしを以て自立して齊王となりなる。然れども劉邦遂に皇帝となるに及び、誅を恐れて海島に逃れ、こゝにて自殺したり。

歐陽修字は永叔、吉州廬陵の人なり、眞宗の大中祥符三年(歐陽修年四歳)に孤となる、其家極めて貧なりしが母鄭氏賢良にして能く其子を教へ、荻を以て地に畫じ以て書を學ばしめたり。長ずるに及びて博く群書を極め、進士に及第し、西京の推官に調せらる。此時尹洙と迭に相師友し、又梅堯臣と遊ぶ、二人に得たる所頗る多しと云陽修嘗て昌黎の遺稿を得、心竊かに之を喜び古文に依りて時習を二洗せんと志したりしが其目的は始ど達せられたるが如く、彼は特に古文に長じ且つ詩を能くせり。熙寧五年(西紀一〇七二年)卒す、年六十六、太子大師を贈り文忠と諡したり。醉翁、六一等の號あり。

ポヤルコフ 黒龍江の探検家なり、西曆一六四三年七月彼は部下百二十七人を携へ山河を跋渉し黒龍江の上流にて土人より毛皮類を徵收し、同時に銀鉛及び銅坑を發見したり。其翌一六四四年彼等の一行はゼーヤ河畔の土人と戦ひ部下の兵十人を失ひれたどもポルヤコフは無事に黒龍江に達し而して其分遣隊は松花江の下流に於て再び其地の居民と戦ひたり、翌年夏彼は躬ら船舶を造り秋に及んで部下を率ひオホツク海を航してウラライ河口に達し一六四六年終にヤクーツクに歸著す、彼は黒龍江の上畔に於て滿州の領主ナンニングに貢租を納入する人民を見たりと

報告せり。而して其人民は支那人に非ず又滿洲人に非ず唯貢物を滿州人に納るゝ一種の土民たるに過ぎずと思料せるが故此土民より徵せる貢物を莫斯科府に送致したるなりと云ふ。

利瑪竇 伊太利の耶蘇教徒なり、天文曆數の學に精通し特に地理に明かなり、西紀一五八一年(萬曆九年)香山澳に到り、翌年廣東の肇慶に住して耶蘇教を傳道す、一六〇一年(萬曆二九年)彼は同志龐迪我と共に北京に入り、神宗皇帝にマリアの圖像を献じ、又別に數多の方物を献じて耶蘇教宣布の許可を得たり。彼れが始めて支那に來りしよりこゝに至る實に二十年の日子を経しなり。彼れが學問上の歎手としては朱載堯、刑雲路諸人ありしも皆彼れに歎する能はず。徐光啓、李支藻等は彼れが熱心なる信者となり、又彼れの爲に星曆諸科の學を學びたり、一六一〇年(萬曆三八年)死す。

西洋史

一 イギリス國會の起原並其兩院分立に

至るまでの發達の概要

イギリス國會の成立は一二九五年にして此時まで三局即ち僧侶會議、貴族會議、市

民會議なりしが外國との交渉頻繁となり内治外交の必要上三局を合併す然れども僧侶は宗教の會議あるを以て議會に出でず議會は唯貴族中の小貴族と市民合して下院となり大貴族は上院となれり而して此組織は一三四年に至るまで繼續し此時以來兩院分立す。當時大貴族は國王より召集されしが小貴族は選舉にて之れをなしたり。

二 第十九世紀間黒海の海峽に關係せる諸契約並に其内容

一八四一年七月十三日英露佛埃の間に海峽條約を結びてウンキアル、スケレッツン條約に換へ、土耳其帝はボスオラス及ダーダネルスの海峽を鎖すべきを列國に約す。然るに其後十年を経ざるに露土の争となり續いてクリミア戦争は開かれたり而してクリミア戦争の結果露國の敗に歸するや黒海は之れを中立とし露土兩國とも軍艦十隻以上を浮べぬことを約せしは實に一八五六年なり。三月三十日調印の巴里條約第三條に黒海は中立とし露土二國共に其沿岸に兵器製造所を建設することを禁ずと雖も海上警察及沿岸保護の爲に同數の小艦を使用することを得又土耳其は

平和の時に於て他國軍艦がダーダネルス及ボスオラス海峽も通行することを許さざるべし云々。されどパリ會議の此黒海中立に關する條約は一八七〇年普佛戦争の際露國之れを破りて自國の軍艦を自由に通航せしめたり。一八七一年ロンドン條約にて列國之れを承認す。

三 左の語の解釋

甲 サトラブ 乙 カアバ 丙 ランヅクネヒテ 丁 チェルゼター
 サトラブ (Sattirap) 紀元前五世紀に於けるベルシア帝國の地方總督のとなりテライアスは全帝國を二十餘州に分ち各州に此サトラブを置き以て中央集權の政治を行ひたりサトラブ制度は現今トルコ又は支那帝國に行はるゝ總督政治に似たりと云。デライアスに依て組織せられたるもの最も完備したり蓋し其制度は土地の遠近と職業の文武に依つて其類を異にし以て總督と人民の間を調和したるが故なり。
 カアバ (Kaaba) アラビアのメッカに在る宮の名にして神石を祭る。不可思議なる黒石なりと云ふも一説には隕石なりと稱す。モハメットは此のカアバの方面に向ふて一日に五度神を禮拜すと云ふ。

ランツクネヒテ(Landsknechte) 西曆十五六世紀の頃、ドイツに行はれし歩兵の一種なり。一四八七年ドイツ皇帝マキシミアン一世は戦争の際其貴族等が従軍を欲せざるに苦心し、餘義なくオーストリア領地内の兵を備ひ、以て當時流行せしスイスの雇兵制度に倣ひ其報酬に金錢を與へて従軍せしめたり。彼等は武器としては鋒刀、及ハレバルト等を用ひたり。ランツクネヒテとは郷兵の意なり、蓋しスイスの雇兵は山中より出でしもオーストリアの雇兵は平野より起りし故に此名ありと。

チエルゼター(Hiers Graf) 各國異なりと雖も佛國にては十四世紀より一七八九年佛蘭西革命に至るまでの間に在り。僧侶、貴族、平民の三民議會の時第三階級即ち平民の階級にして僧侶、貴族の次席に列する人民なり。

四 左の人々の事蹟

甲 クロイッス 乙 老カトー 丙 カウニッツ 丁 トルステンソン
 クロイッス(Crossos) は紀元前第六世紀に於ける有名なるリチアの金満家なり。故に Rich as Croisos の稱あり、此金満家はリチア王國第五代の王にて希臘諸市より徵收する税と其金坑より得る所の収入は王の國庫をして天下に冠絶せしめたり、王の

時リチアの勢力は西は海岸の希臘諸市を征服し以て地中海及黒海の貿易權を掌握し。東はリキアを除くの外ヘリス河以西の小亞細亞悉く其主權に屬したり。

老カトー(Cato) は紀元前第二世紀に於ける羅馬の政治家にして元老院議員なり、彼は羅馬人の氣象を鼓舞し大にカーセージに當らんとし、第三回ピニク戦争の結果カーセージに對する條約を締結し以てカーセージを苦境に投ぜり。マシニッサの包圍攻撃の時カーセージ人は何の成す處を知らざりしが老カトーは常に演説して云へり、假令ひ元老院には如何なる議論ありともカーセージは終に亡ぼす可き者なりと而して之れを口癖の如く云へり。

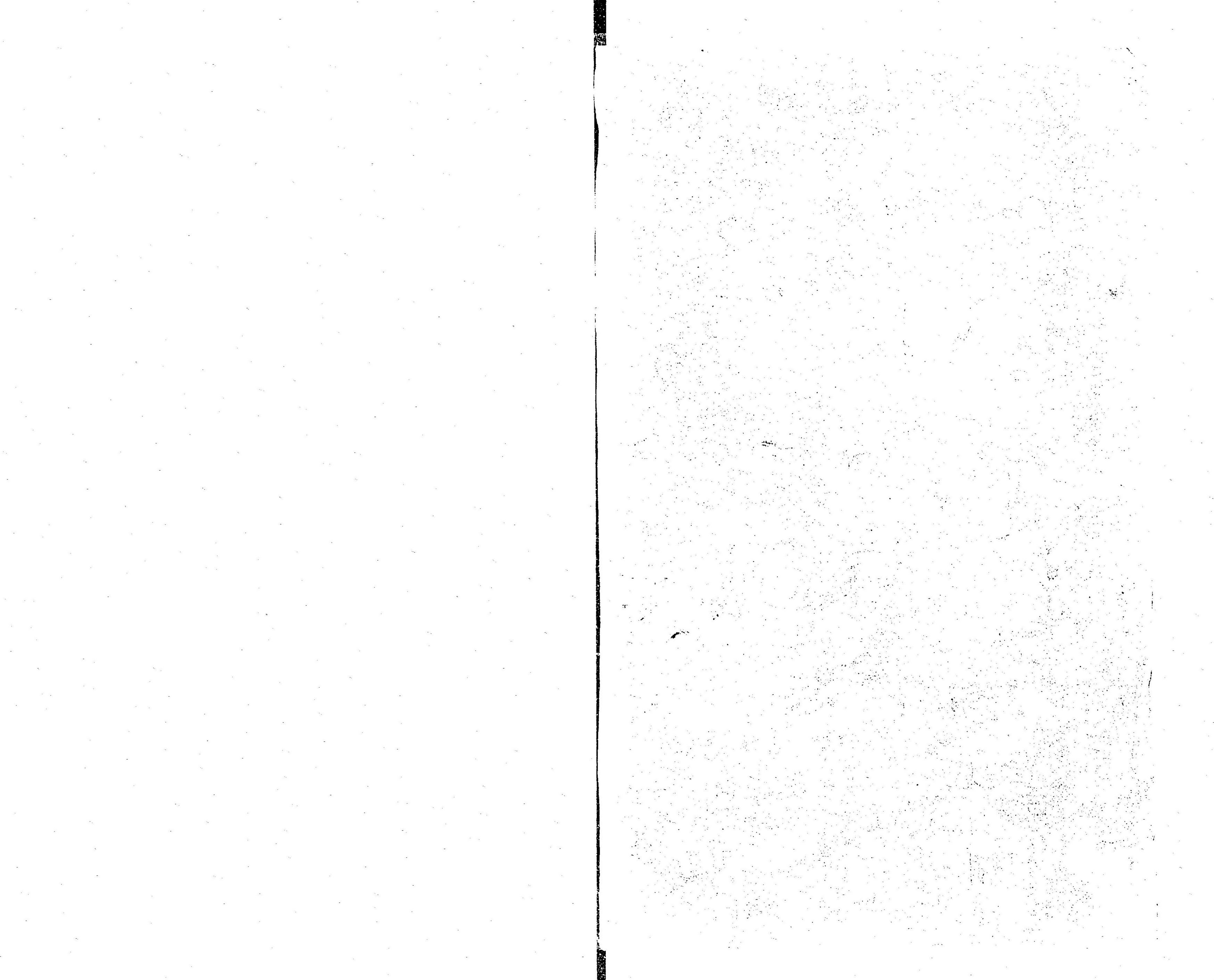
カウニッツ(Kaunitz) は第十八世紀後半に於けるオーストリアの宰相兼外務大臣なり、彼はオーストリア女王マリアテレサを助け其死後まで活動す。就中フランス及ロシアと同盟しプロシアを亡ぼさんとし一七五六―一七六三年に至る七年戦争を起しフレデリック大王を苦しむ。

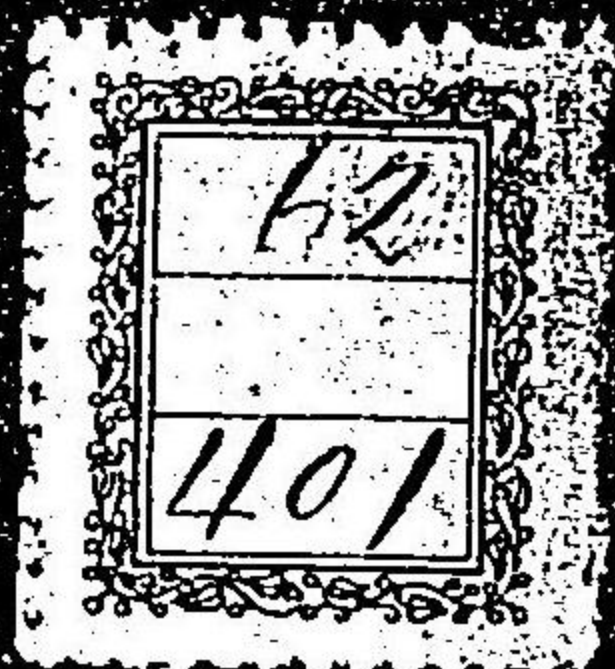
トルステンソン(Torstenon) は三十年戦争の第三期ゴスタワス、アドルフワスの部下に在りて働き第四期までスキューデンの軍を率ひて戦ひし名將なり。

教員檢定試験問題解答終

62
101

3
12
14
15





早稻田大學三十九年度
地理科第一學年講義錄

教員檢定試驗問題解答

早稻田大學編輯部編

310528-000-0

62-401

教員檢定試驗問題解答

早稻田大學編輯部 編